

財団法人 日本サッカー協会

平成 21 年度 第 10 回理事会

協議事項

<p>1. 全日本女子ユース（U-15）フットサル大会の件</p>
<p>平成 22 年度より全日本女子ユース（U-15）フットサル大会を主催したい。</p> <p>理由：フットサル、及び、サッカーともに第 3 種（U-15）年代の女子選手数が減少する傾向にあり、この状況を改善するために、トライアルとして本年度男子全日本ユース（U-15）フットサル大会中に全日本女子ユース（U-15）大会プレ大会を併催した。プレ大会のため地域予選は必須ではなかったが、予選を行った地域からは、この年代の女子選手の目標が増え、地域内での活動活性化につながるのの前向きな感想が寄せられた。</p> <p>また全国大会は非常にレベルが高い試合が繰り広げられた。</p> <p>上記を鑑みて、女子のユース年代におけるフットサル、及び、サッカーのさらなる普及を主たる目的として大会を新設する。</p> <p>参加チームは 9 地域より各 1 チーム、計 9 チームとする。</p> <p>大会運営経費等の環境を考慮し、当面は男子ユース大会と同会場にて 2 日間にわたり併催する。</p> <p>第 1 回全日本女子ユース（U-15）フットサル大会          主 催：(財)日本サッカー協会          主 管：日本フットサル連盟、(財)岐阜県サッカー協会          期 間：2011 年 1 月 9 日(日)～10 日(月・祝)</p>
<p>2. 2010 年ナショナルコーチングスタッフの件</p>
<p><b>(協議) 資料No. 1</b></p> <p>【男子】</p> <p>[SAMURAI BLUE (日本代表) ]</p> <p>監 督：岡田 武史          コーチ：大木 武、大熊 清、小倉 勉          GK コーチ：加藤 好男</p> <p>[U-19 日本代表 (U-20 ワールドカップコロンビア 2011) ]</p> <p>監 督：布 啓一郎          コーチ：牧内 辰也          GK コーチ：川俣 則幸</p> <p>[U-16 日本代表 (U-17 ワールドカップメキシコ 2011) ]</p> <p>監 督：吉武 博文          コーチ：菊原 志郎 (東京ヴェルディ)          GK コーチ：大橋 昭好</p>

【女子】

[なでしこジャパン（日本女子代表）]

監督：佐々木 則夫

コーチ：望月 聡[びわこ成蹊スポーツ大学]

GK コーチ：前田 信弘

[U-20 日本女子代表（U-20 女子ワールドカップドイツ 2010）]

監督：佐々木 則夫

コーチ：高倉 麻子

GK コーチ：前田 信弘

[U-17 日本女子代表（U-17 女子ワールドカップトリニダード・トバゴ 2010）]

監督：吉田 弘[常葉橘学園]

コーチ：手塚 貴子[栃木 S C]

GK コーチ：川島 透[金光大阪高等学校]

[なでしこジャパン・U-20 日本女子代表・U-17 日本女子代表]

フィジカルコーチ：広瀬 統一[早稲田大学]

3. 地球温暖化防止のための国民運動「チャレンジ 25 キャンペーン」の件

**（協議）資料No.2**

政府が取り組んでいる地球温暖化防止「国民運動」について、2009年9月、鳩山内閣総理大臣が国連気候変動サミットにおいて新たな温室効果ガス排出量の削減目標を掲げたことに伴い、本年1月14日より新たな展開を行うこととなった。

斯かる件につき、中心となって活動を推進する環境省より J F A に協力要請があり、前国民運動「チーム・マイナス 6 %」への参加と同様、引き続き協力したい。

名 称：地球温暖化防止のための国民運動

愛 称：「チャレンジ 25 キャンペーン」

概 略：2020 年までに 1990 年比で温室効果ガス 25%削減を官民一体で行うもの

補 足：リーダー（鳩山総理大臣）、サブリーダー（小沢環境大臣）

※応援団のメンバーとして、岡田武史氏も賛同

※本運動正式参加後、従来通り、各地域・都道府県協会主催イベント等においても、「チャレンジ 25」ロゴ貸出等を J F A にて対応可能

（各地域・都道府県協会、各団体、各チーム・個人等の個別登録も可能）

活 動：J F A では、従来活動の通り、広報活動への協力や J F A グリーンプロジェクト、クリーンスタジアム活動、環境プロジェクト、J F A ハウスでの各種取り組みなどを行うものとする。

4. 日本サッカー後援会 会員表彰の件

**（協議）資料No.3**

日本サッカー後援会会員として30年在籍した者に対し、本協会として、永年に亘る援助に対する感謝として、以下の通り表彰したい。尚、本表彰制度は2008年より実施している。

(1) 対象者：22名（別紙参照）、（参考：2009年 48名、2008年 101名）

(2) 表彰内容：①感謝状及び記念楯の贈呈

②年間のうち、日本代表戦を1試合ご招待

③JFAニュースで表彰対象者の名前を掲載

<参考>日本サッカー後援会からの後援金収入

平成16年度 70,000千円（JFA 60,000千円、Lリーグ・フットサル各5,000千円）

平成17年度 76,000千円（JFA 60,000千円、Lリーグ・フットサル各8,000千円）

平成18年度 65,000千円（JFA 55,000千円、Lリーグ・フットサル各5,000千円）

平成19年度 64,000千円（JFA 52,000千円、Lリーグ 7,000千円、フットサル5,000千円）

平成20年度 59,000千円（JFA 43,000千円、Lリーグ 5,000千円、フットサル10,000千円、  
こころのプロジェクト1,000千円）

5. JFAロングパイル人工芝ピッチ公認(新規)の件

1. 公認申請者：(社)宮城県サッカー協会

施設名：(社)宮城県サッカー協会 松島フットボールセンター  
(宮城県/宮城郡)

施設所有者：(社)宮城県サッカー協会 会長 小幡忠義

公認期間：2010年2月10日～2013年2月9日

公認番号：第98号

<特記事項>

- ◆セーフティターフ(MF-200) /泉州敷物㈱は製品検査(ラボテスト)を完了し、JFA ロングパイル人工芝基準を満たしている。
- ◆公認規程に基づき2回の検査(フィールドテスト)を実施し、JFA ロングパイル人工芝基準を満たしている。

6. 芝生のプレーグラウンド整備者に対する感謝状発行の件

**(協議) 資料No.4**

芝生(人工芝を含む)のプレーグラウンドの整備に関する社会的な機運のより一層の醸成を目的に、都道府県サッカー協会の推薦により、芝生のプレーグラウンドを整備した者に、別紙の運用規則に則り、感謝状を発行することとしたい。